

## 【研修報告】

# 「5th International Nursing Management Conference」 に参加して

実 藤 基 子\*

## はじめに

「第5回国際看護管理会議（5th International Nursing Management Conference）」は、2011年11月17日から19日までの3日間、トルコのアンタルヤで開催された。本会議は、看護教育者と臨床看護師（主に中堅以上）が、最新の保健医療福祉における動向について情報交換や意見交換することから、国際的な協力を目指している。本会議場となったベレキという土地は、ローマ、ビザンチン、オスマン帝国を含む多くの文明の礎であるという歴史と、自然の美しさを満ちた素晴らしいエリアに位置しており、喧騒から隔離されたゆったりとした空間での学会開催であった。この会議へは31ヶ国から約500人の参加があり、会議はトルコ語（公用語）と英語の2ヶ国語で進行された。開催期間中には、口頭32、ポスター129を含む161の発表があった。

本年度のテーマは、“Nurses Leading Innovation in Challenging Times”であり、看護教育におけるイノベーション（Innovation in Nursing Education）、看護実践と管理のイノベーション（Innovation in Nursing Practice and Management）、看護イノベーションの普及：実践からの教訓（Dissemination of Nursing Innovation: Lessons from Practice）、ヘルスツーリズムと新たな現実（Health Tourism and The New Realities）、医療経済学：看護管理と実践への示唆（Health Economics: Implications for Nursing Management and Practice）に分類されていた。プログラムは、基調講演の他、パネルディスカッション、ポスター発表及びディスカッション、ワークショップで構成されており、いずれの会場においても参加者からの活発な質問や意見があり、発表者と共に、本会議の目標である対話と協力により「革新的なパワーを集結させる」ことに寄与していた。

## 学会発表の報告

各国において、多くの看護学生が学んでいる「看護過程（Nursing process）」において、看護過程の初学者におけるアセスメント力を評価をした報告を行なった。

まず、A看護大学と同様に日本の看護大学や専門学校では、看護過程を学ぶ際に、ヴァージニア・ヘンダーソンの看護理論を学び、それをツールとして情報収集やアセスメントを行なっていることについて示した。また、通常、教員の講義後、ペーパーペイシェント事例を用いたグループワークによる演習が行われ、一連の援助計画立案（もしくは評価まで）した後、全体発表をして学びを共有する教育方法が、日本において主流であることを紹介した。そのうえで、本会議のテーマであるイノベーション（Innovation）に特化した視点から、「看護過程履修した学生（2年次）のアセスメント能力の評価—客観式テスト結果の分析より—（Evaluation for assessment ability of students enrolled in nursing process for first time）」を発表した。

本研究では、これまで行われていた大半の看護過



写真1：会場ホール

\* 日本赤十字広島看護大学

程の評価が、グループで一つ仕上げた関連図であったことから、これでは、学生個々のアセスメント力が不明確であると考えた。そこで、学生のアセスメント力をより客観的に評価する方法として評価ツールを作成し、それを用いて評価を行なった一連の取り組みについて紹介した。① 学生には自己学習課題として脳梗塞の疾患をもった患者の看護についての学習をするように提示しておいた。② 提示した課題をもとに、担当教員が脳梗塞患者の典型事例を作成した。③ テスト当日、学生へその事例を提示し、学生は、その事例から関連図作成および看護問題（ニーズの未充足）を抽出した。④ ③について予め設けておいた基準をもとに学生個々について採点した。

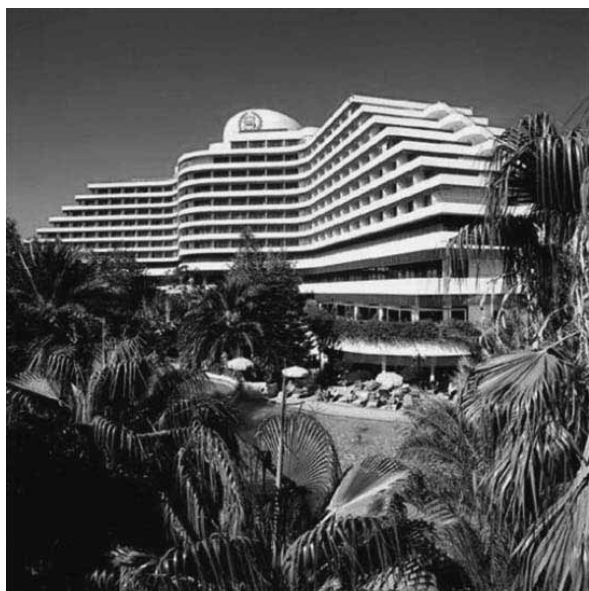


写真2：カンファレンス会場

今回の研究報告では、第一に、客観式テストを試みたことによって、学生全体およびグループワークでは把握することができない学生個々の学習到達度を評価することができたこと、第二に、学生が抽出できた看護問題、抽出できなかった看護問題を分析することで学生の苦手とする傾向性を把握でき、今後の教育に生かす示唆を得ることができた、といった内容が「イノベーション（Innovation）」であると考えた。今後の課題として、より明確な評価ツールを開発すること、教育方法全体を見直していくことなどが挙げられた。

## おわりに

トルコの看護教育については、事前に情報や知識がなかったので、具体的には、どのようなレベルの教育が為されているのか、大変興味・関心があった。トルコの臨床看護師や教育者からの発表の中では、シミュレーション教育に関するテーマが数多くみられ、日本における看護教育と同様、臨床現場や教育機関で思考錯誤しつつ導入され、活用されていることが理解できた。また、看護管理者の参加が多数であったことから、看護師のストレスや看護師個々のモチベーション向上等に関する研究報告もみられ、看護職が、いつ、どこにあっても、人間関係を基盤とした職業であり、ヒューマン・ケアリングの実践能力の重要性を再認識した。

## 謝 辞

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えて下さいました日本赤十字広島看護大学に心より感謝いたします。